

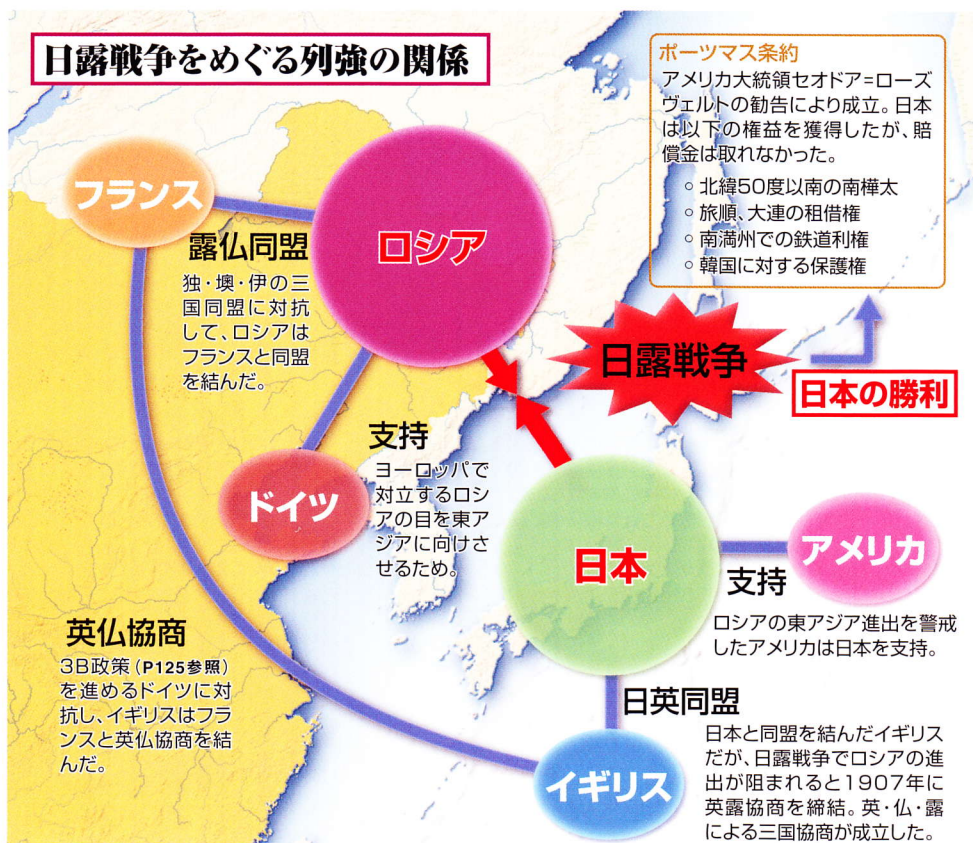
列強の代理戦争だった 日露戦争

**列強による義和団鎮圧と
日本が勝利した列強代理戦争**

列強による侵略が進む清では、民衆の間で外国勢力への反発が高まり、山東省では義和団と称する宗教結社が排外運動を展開した。1900年、「扶清滅洋」を掲げて蜂起した義和団が北京に入ると、清政府は義和団を支持し、協力して外国公使館地区を包囲した。これに対し列強は、8カ国連合軍を組織して制圧。01年に北京議定書を締結させた(義和団事件)。

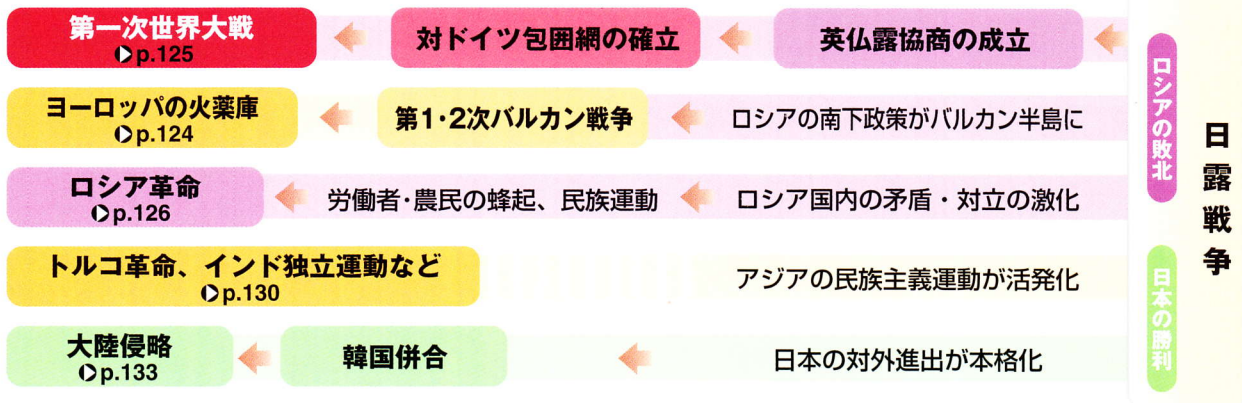
その後も、ロシアは満州に軍を駐留させ、さらに朝鮮半島にも勢力をのびせようとしたため、ついに日本と衝突した。ロシアの進出をけん制したいイギリスは、02年に日英同盟を成立させ、日本を支持。ロシアの目を東に向けさせたいドイツはロシアを支持するなど、両国の対立はヨーロッパ情勢も含めた列強の代理戦争となった。こうして04年に日露戦争が始まったが、両国とも国力は十分ではなく、長期戦は不可能であった。さらに、ロシア国内で血の日曜日事件が起きて革命運動が広がり、戦争継続が困難になると、アメリカの調停でポーツマス条約が結ばれた。戦勝国となった日本は南樺太や遼東半島南部を獲得したほか、韓国保護条約(第2次日韓協約)を締結し、韓国併合の準備を進めた。

日露戦争とその影響



日露戦争がもたらした影響

日露戦争で日本が勝利したことは、アジアの民族主義運動に勇気を与えたほか、ロシアの南下政策がバルカン半島方面に向け、第一次世界大戦の遠因をつくるなど、あらゆる方面に影響を与えた。



Key Word

韓国併合

日露戦争後、日本は数次にわたる日韓協約を結んで韓国(1897年に大韓帝国と改称)の保護国化を進め、ソウルに韓国統監府を置いて韓国内政に干渉した。これに対し、初代統監の伊藤博文が暗殺されるなど反日義兵闘争が激化したが、日本はこれを武力で鎮圧し、1910年の韓国併合条約によって韓国を併合した。